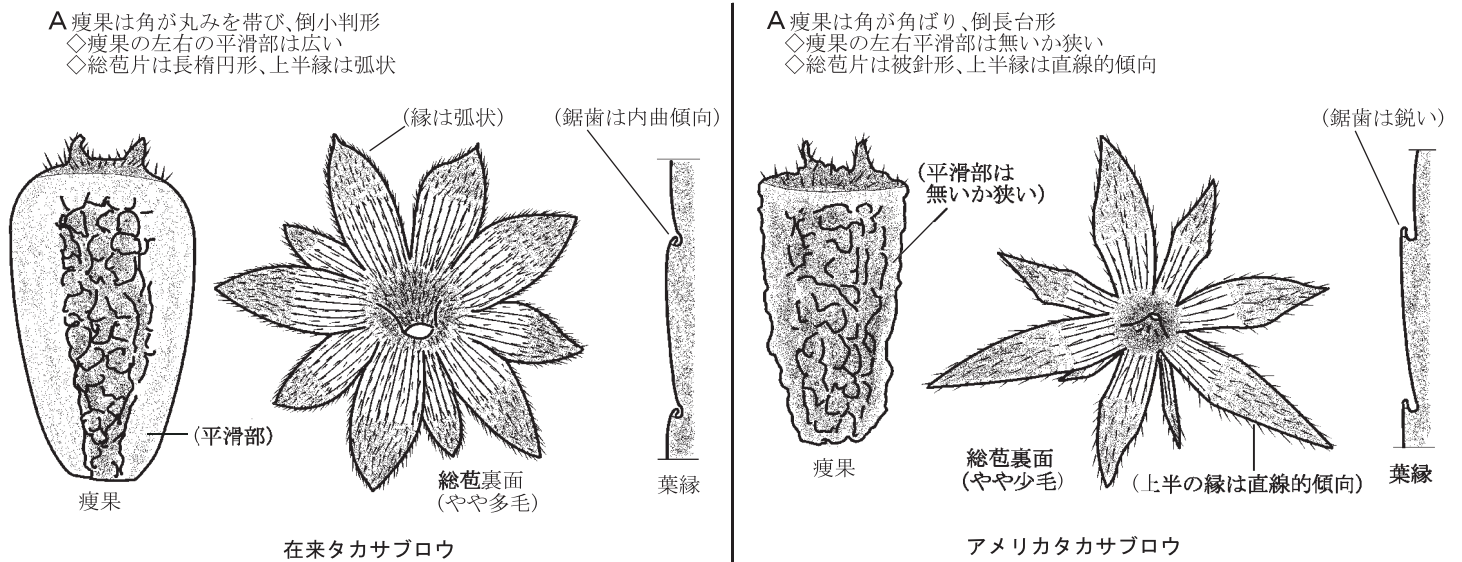


キク科 タカサブロウ属(Eclipta) 図入り検索表

- ◆A瘦果は角が丸みを帯び倒小判形;左右の平滑部は巾広く、やや翼状にみえる;明褐色に熟す
  - ◇瘦果は一般に長さ約2.5~2.7(3)mm×巾約1.7mm(瘦果が小さい場合は中間形の可能性があるか、総苞の形状に注目する)
  - ◇総苞片は長楕円形で、上半は弧状に狭まり鋭頭となる;総苞の表は多毛
  - ◇葉の鋸歯は内曲し葉縁より出ない傾向がある【在来タカサブロウ *Eclipta thermalis* Bunge】

◆A 【中間形】

- ◆A瘦果は角が角ばり、倒長台形;左右の平滑部は無いかまたは巾狭い;黒褐色に熟す
  - ◇瘦果は一般に長さ約2.1~2.4mm×巾約1.1~1.3mm
  - ◇総苞片は披針形で、上半は直線的傾向で狭まり鋭頭(総苞片にふくらみを感じずる場合は、中間形の可能性があるか注目する)
  - ◇総苞の表は毛がやや少ない
  - ◇葉の鋸歯は前方に尖り、葉縁よりはっきり外側に出る傾向がある【アメリカタカサブロウ *Eclipta alba* (L.) Hassk.】



\*\*\*\*\*

《中間形について》

検索表を作るに当たり、在来タカサブロウとアメリカタカサブロウの両種を調べるうち、いくつかのサンプルで中間形が確認された。中間形に関しては各地で認識されており、自然雑種もしばしばみられる(梅本1997)とされている。

瘦果の基本データとしては、在来タカサブロウの瘦果長さ約2.5~2.7mm、巾約1.7mm。アメリカタカサブロウの瘦果長さ約2.1~2.4mm、巾約1.1~1.3mm、を基準に考え、形状やサイズに疑問がある場合は総苞の形状にも注目し詳細に検討する。

- ◇瘦果形状やサイズが中間の大きさ
- ◇瘦果形状やサイズは在来タカサブロウであるが、総苞の形状がアメリカタカサブロウ的
- ◇瘦果形状やサイズはアメリカタカサブロウであるが、総苞の形状が在来タカサブロウ的

などが一般的中間形の着目点と考える。